

2019年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

大学入学共通テスト試行調査の「政治・経済」に見られたような、4頁にも及ぶ資料問題などの極端に手間のかかる設問は存在せず、例年通りの形式・内容で出題された。出題分野は「倫理」から50点分（解答数18）、「政治・経済」から50点分（解答数18）と均等に出題されている。「倫理」では4択を基本としつつも6択の設問があり、「政治・経済」では4択を基本としつつ6～9択の設問も出題されているため、正確な知識が求められていると言えるだろう。すべての設問は、単独科目の「倫理」「政治・経済」からの抜粋で構成されているため、過去問学習では「倫理、政治・経済」の過去問にとどまらず、単独科目の過去問にも取り組むべきである。なお、試験会場で問題文の訂正が示されたが、受験生が戸惑う内容ではなかったと思われる。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	家族をテーマとした会話を通じて、現代社会の諸課題や現代思想を総合的に問う。	14点	「倫理」分野。青年期の自立、生殖技術、社会における支え合い、自由をめぐる思想、ロールズの正義論の順に問う。時事的な要素のある言葉や法律・条約などは、「政治・経済」でも学ぶ領域である。
第2問	心をめぐる日本の先人たちの思索を手がかりに、日本思想と中国思想・仏教思想を問う。	18点	「倫理」分野。日本の古代思想、慈悲、武士の思想、日本人の美意識、中国と仏教思想、西田幾多郎の「無」、リード文の趣旨の順に問う。日本思想と源流思想を合わせて問うのは、昨年度と同様の形式である。
第3問	「ある日突然、恋に落ちた。」で始まる印象的なリード文で、源流思想と近代思想を問う。	18点	「倫理」分野。世界の宗教、自然の捉え方、ベーコンのイドラ、ヘーゲルの絶対精神、進化論、リード文の趣旨の順に問う。源流思想は1つの設問に多様な思想家を総合的に問う一方で、近代思想は特定の思想家の考え方を問う。
第4問	グローバル化をテーマとしたリード文で、政治・経済の各分野を総合的に問う。	22点	「政経」分野。特別裁判所、国民経済計算、条約、BRICSのGDP推移、国連海洋法条約、日本国憲法、金融の現状、会社企業の類型の順に問う。知識問題中心だが、BRICSの設問は知識を前提としたグラフ読み取りかつ9択であった。
第5問	基本的人権と統治機構にかかわるリード文で、政治分野の憲法を軸にして問う。	14点	「政経」分野。人身の自由、新しい人権、新旧憲法の比較、国会、地方自治の順に問う。いずれも知識問題であるが、6択、7択、8択の設問があるため、正確な知識が求められている。憲法の条文や判例などにも目を通しておきたい。
第6問	環境問題をテーマとしたリード文で、経済分野を総合的に問う。	14点	「政経」分野。リスト、国債発行額と税収の推移、環境保全政策、地方都市の課題、環境保全への取り組みの順に問う。知識問題中心だが、国債発行額と税収の設問はグラフ読み取りかつ8択であった。